

和束町子ども子育て会議（第2回） 議事録

日時：令和6年10月22日（火） 午後1時30分～

場所：和束町商工会館 研修室

委員：出席6名、委任状提出4名

1. 開会

2. 議事

（1）アンケート結果について

資料1について事務局より説明。

会 長：アンケート結果をみるときに大事な視点として、保護者が和束町の子育てにこういったイメージを持っているか、その平均的な像を考えておくことが必要だと思う。今回、アンケートとして、町の取組に「不満をもっているところ」「満足しているところ」で整理いただいているが、資料の8ページに記載のあるように、評価もばらつきがみられる。質問の仕方の問題もあると思うが、もう少しプロットとしてまとまったものになると良かったと思う。

事務局：質問の形式として、分かりづらい部分もあったと思う。申し訳ない。おっしゃる通り、評価もばらけてしまっているが、見えてきた特徴として、不満に思っている方が多い傾向にある項目を、色付けさせていただき整理させていただいた。

会 長：自分自身も、医療に携わる者として小児医療の部分は関心が深いですが、自治体の規模や子どもの人数を踏まえて考えていくことは必要で、ないものねだりで、「無いこと」を課題とするだけではなく、今あるものをどのように活用していくのかという考え方をしていくことが必要だと思う。また、園や学校への評価が高くなっているが、調査票を園や学校で回収するため、悪い評価は書きにくかったのではないかと。「不満に感じている」人が0人という結果をみて、感じた。

また、もう1点、町外在住者の回答内容の中で、「町営住宅の負担が大きく、住むことを諦めた。」という記載があるが、町営住宅は、そこまでの負担はないと認識しているが、町の現状としてそういった可能性はあるのか。

事務局：町営住宅は、所得によって負担額が変わるので、一般的な賃貸の家賃よりも高くなる可能性はある。

会 長：それは、町の方で調整・対応いただきたい部分。お願いする。

また、遊び場に関して、昔の感覚でいうと子どもの頃の遊ぶ場所というのは、野山を駆け回って虫取りするようなところだったように思う。そういった場所かというと、和束町が大変豊富なのではないかと。また、図書館で日曜日に実施している事業も、室内なので雨の日でも遊べる場所であると思う。遊び場を求める声は多いが、そういった事業の利用者数は少ない。アピール不足な部分もあると思うので、知ってもらえることも大事な視点であると思う。また、今後出来る福祉施設の方でも、子どもたちが遊べる場所を考えていけると

良い。

小児医療に関する部分も、大きい市町と比べると難しいが、和束町では今年から乳児検診に小児科医が来て対応するなど、改善している部分もたくさんある。そういったところ含めてPR・発信をして、町民の皆さんのご理解をいただければ良いと思う。

委員：遊び場に関する意見について、子育てサロンにおいても、参加者の方から遊び場が少ないという意見を聞くことがある。遊具等が整備された公園が和束町には少ない。山の家の方にも公園があるが、設備として古い。そういった状況がある。

委員：自由意見の中にも、遊具の木のトゲが刺さるといった意見もあった。

委員：毎日の遊ぶ場所としては、近い場所にあると良いと思う。保育所の駐車場の向こうに広い場所があるので、そこに子どもたちや保護者の方が集まって遊んだり話したりできると良い。

また、学童に関して、年配の指導者が多いと聞く。指導者の年齢層が高いのは、なり手がないことが要因の1つであると思う。学童の指導者は、アルバイトでの雇用形態となっているため、希望する方が少なくなってしまうのではないかと。町として雇って、生活できるような給与水準にできれば、若い方含め、就労先の1つとなると思う。

事務局：人材がいなのが現状で、やりたいと言っていた方がいない。時間としても難しいので、なり手がないことが課題となっている。

委員：実際に、自身の子も預けさせてもらっているが、思いっきり遊んでもらっている。みていただいている方には申し訳なくなるくらい、たくさん遊んでもらっている。

遊ぶ内容としても、けん玉や昔遊びもやっていただいて、楽しんで遊んでいる。

事務局：年配の方に来ていただき、昔の遊びを教えてください事業については、この前初めての試みとして実施させていただいた。

委員：そういった遊びは、ご年配の方に遊んでいただかないと得られない経験なので、良い取組だと思う。

会長：人材含めて、改善できる部分はしっかりと改善に進んでいってもらいたいですが、予算の問題もあるので、すぐに解決ということは難しいだろう。他の市町村の状況も見ながら状況把握を進めていけると良いと思うが、たぶん木津川市でも、学童の職員を正社員で雇用はしていないのではないかと。勤務時間の難しさという問題もあるが、間口を広げて、雇用に向けた取組を進めてほしい。

子どもの遊び場に関して、今、昔の遊具が危険であるという理由で、撤去が進められてしまっていて公園に遊具が無くなってしまっている傾向にある。しかし、新しく買うとなると、遊具も高い。運動公園もあるが、平日の遊び場としては近い場所にあるところの方が遊びやすいと思う。もし可能であれば、小学校の遊具を使わせてもらうような取組も出来ると良いと思うが、いかがか。

事務局：校庭を開放するような対応は、学校として可能か。

委員：可能かと思う。

会長：遊ぶ子の年齢にもよると思うが、そういった取組も出来ると良いと思う。

委員：和束町の支援としては、満足度も高く、様々な支援をいただいていると思う。ただ1点気になる部分が、2ページに記載のある、子育てに「不安・負担を感じている」方の割合が、小学生の方で多くなっている。こういった結果を全国の結果と比較することはできるのか。

事務局：全国的に、同じような設問で調査は実施されているが、それらを集計したデータはないので、全国の結果としてのデータをお示しすることは難しい。しかし、いくつかの自治体の結果と比べてみると、和束町の「不安・負担」の割合は決して高くない。

委員：もう１点、「不安に思っていること」について、この項目は前回調査から変わってきているかどうか教えてほしい。

事務局：データを持ち合わせていないので、改めてお示しさせていただく。

委員：経済的負担は、昨今の社会情勢としても、不安に思う方が増えている状況があると思う。また、もし前回調査と比べて、「自分のやりたいことができない」項目が上がってきているのであれば、対応に向けたアプローチが必要なのではないかと思う。この、小学生保護者の「自分のやりたいことができない」というのは、多分送迎の問題だろうと思う。そのあたりもフォローが必要なのではないかと思う。

また、施策の評価の部分で「相談」に関するところが小学生で低くなっているのは、小学校に上がると、相談先がなかなか無いことも要因の１つであると思う。保育園の時は、先生と毎日顔合せてお話しさせてもらっているが、小学生になるとそういった機会もなく、不安が増えてしまっているかもしれない。学校においても、スクールカウンセラー等との相談は設けていただいているし、お知らせももらっている。そこに、もう少しアクセスしやすくなるような、低学年親で座談会を開き、スクールカウンセラーも入ってもらって話せる場を作る等の取組も良いのかなと思う。

後は、全体を通した大きな課題として、交通送迎の不便さと、人口の少なさお友達の少なさがある。町内に施設や設備が無いので、町外へ行く必要がある中で、送迎は必要不可欠であると思う。そこへの対応を計画の中にも盛り込めたら良いなと思う。ファミサポやシルバー人材の送迎等、有料でもいいので送迎を頼める先があると、とても助かると思う。

事務局：有料であっても使いたい、という希望があるということか。

委員：料金次第かと思う。送迎で仕事も出来ず、送迎にかかる交通費も高い。そのコストに見合う料金であれば、料金の調整は必要かと思うが、有料でも使いたいという方がいると思う。

会長：公的な学校への送迎は、町の方で対応いただいていると思うが、どうなのか。

事務局：スクールバス等は、今も走っている。

委員：学校以外にも、習い事に行くときや中学高校に通う時には、そういった送迎を利用できない。公共交通も接続が悪かったりして、送迎の負担が保護者にかかってくる。

会長：高齢者の送迎も、今人手が無く、縮小傾向。運転手の確保が難しい状況。

事務局：送迎先としては、例えば、習い事の場所等を想定しているか。それとも駅でも良いのか。

委員：駅まででも十分だと思う。加茂駅までなど。もし可能なら、木津駅まで送迎いただけるなら、そこからは公共交通で動けると思う。駅まで集団で送って、帰りも時間を決めて回収できればありがたい。

会長：診療もオンラインになってきている。習い事もオンラインにできると良いね。

委員：オンラインのところの紹介をしてもらえると良いかもしれない。中高生の塾の送迎が大変という声も聞く。

会長：公的な学校への送迎は、町として支援していく部分かと思うが、私学の学校に通う子への支援含め、習い事への送迎となると、全員対象でないことは支援として難しい面もあると思う。交通への支援として、町で実施している事業の対象者を広げて支援策を考えていけ

るのであれば、検討も進めていってほしい。

委員：もう一つの、人口減少に関しては、アンケートの意見でもあったが、発信・PRが必要だと思う。インスタ等のSNS含め、発信に力を入れていってほしい。

会長：人口減少対策は、子ども分野だけで取り組んでいくものではなく、町全体として人口減少対策はたくさん取り組んでおられる。しかし、大きな歯止めには至っておらず、人口減少対策も、近隣自治体との取り合いでしかない面もある。トンネルができたから人口が増えるということはなかなか難しいと思うし、教育の良さや税金の安さ等のPRをしていくこと、宣伝をしないといけないと思う。また、観光面の強化を行い、子育て世代の呼び込みをしていく作戦も良いと思う。町として頑張って進めてほしい。

委員：私は2年ほど前に和束町に移住してきて、町の子育て支援については満足をしている。遊ぶ場所としても小さな公園があったり、小児科がなくても普通の内科で診てもらえたりしてありがたい。しかし、そういった情報がインターネットに載っていなかったりする。そのあたりの情報をもっと発信してもらえたら嬉しい。

この間、アプリ（母子モ）をダウンロードして、和束町の情報を見ると、公園が森林公園と運動公園の2つしか載っておらず、病院も、山城病院と田辺の方の病院が載せられていた。

公園は、小さい公園もたくさんあると思うし、公園の情報を遊具の種類や公園の広さわかる情報を載せてもらえたら、自分の子どもの年齢に応じて、行く公園を選択できると思う。また、病院についても、大きい所だけではなく、ちょっとした風邪薬・塗り薬が欲しいときに行ける近くの病院の情報もあると良いと思う。

会長：ホームページの情報の古さはあると思う。ホームページに載せる情報としても、町内の方に情報を発信するページと、町外の方へPRするページと考えていただければと思う。

委員：うちの子どもたちは、兄弟で遊ぶので、公園に行っても2人で遊んでいるのが、そうでない子たちにとって、友達がいない、遊ぶ子がいない状況があると思う。そこもどうにかできたらと思う。

委員：私自身、資料を見て、自由記述の中でも、町営住宅、交通の不便さ、プール、公園と、難しい部分も多く、会長もおっしゃっていたように、ないものねだりな部分も大きいなという印象を持った。しかし、もちろん知恵や工夫、最新の技術を活用してできるだけフォローしていく視点は重要であると思う。また、交通支援としてのワズカーは、奈良交通のバスの利用者増も目的の1つであったと聞く。そのあたりの効果もどれくらい出ているのか、知りたい気持ちもある。

アンケートで公園を求める声も挙がっているが、自分自身が住む木津川の地区にある公園で、遊ぶ子どもはほとんどいない。不審者が怖い、猛暑で外で遊べない、コロナといった要因はいくつもあるが、子どもはいるけど公園では遊んでいない現状がある。では、実際に子どもはどこで遊んでいるかというと、お隣のお家の玄関先で、家のWi-Fiを使ってゲーム等をしている。歩いて15秒のところに公園があるのに、公園の中では一切遊ばない。これが、今の子どもなのだろうと思っている。また、意見も出ていたが、近所に子どもが少なく、同学年の子もなかなかいない。こういった現状が和束町にはある。

子育て不安に関して、相談の話が先ほど出ていたが、小学校の1～6年生の担任が平均年齢32歳～33歳となっており、4人が独身の先生となっている。昔は生徒も先生も多かつ

たので、ベテラン先生に相談するような機会があったかもしれない。もちろん我々も教育のプロとして、相談能力を高めるよう取り組んでいるが、もしかしたら、子育てを経験したことがない若い先生は、子育てのことをわかってくれないだろうと保護者の方が思っておられたりして期待されない状況があるとしたら、それはとても残念だなという思いもある。

会 長：子どもたちが自然の中で遊んで楽める、という環境にある和束町の良さを、保護者の方にも理解いただくことが大事なのではないかと思う。親世代は虫も触れない・見たことないという方も多い。昔ならではの遊びで思いっきり遊べる和束町の良さを伝えてほしい。

委 員：本日は、保護者会もあったのにもかかわらず、保護者の方も委員として来ていただいております、大変ありがたい。

アンケート結果の中で、園の満足度が高くなっており、うれしく思っていたが、会長のおっしゃる通り、回答のしづらさがあったかもしれないと思い、少しがっかりしている。日々、保護者の皆さんとは毎日顔を合わせてもらい、子どもの様子はもちろん、お母さんの様子も見ながら、ちょっとおかしいなと思う時には声かけしたりさせてもらっている。保護者の皆さんは、いろんな悩みを持ちながら子育てしていらっしゃることと思う。

遊び場のことについて、最近、自転車で走っている小学生をたくさん見るようになったなと思っている。少し、昔に戻った和束町らしさが見られて嬉しい。親が最初から危ないと教えるのではなく、子どもたちが自分で体験して、活動した中で危なさを感じたり、学んだりできる環境があるみたいで、良いと思う。ヘルメットもしっかりとかぶって、5時になったら帰ってという姿をみていると、自分たちで良いこと・悪いことを考えて、学んでいるのだなと感じている。

遊ぶ場所がないという保護者の悩みはもちろんあると思うが、子どもたちは子どもたちで、自分で遊びを見つけて楽しんでいるのかもしれないと思う。保育園の子たちは、保護者といつも一緒に過ごして、危ないことやダメなことを学んでいるが、小学生ぐらいからは、自分でいろんなことを考えて、自分で判断して過ごしている。そういった遊びには、保護者は付いていないので、そういった部分は親御さんがみていないところなのかもしれない。

会 長：今、学校教育においても、自分の意見を発言したり、ディベートしたりという授業が取り入れられている。そういう教育に方針が変わってきているので、小学生などに自分で考えさせるというレベルが非常に高くなっている。もちろん、公立の学校でも私立同様の教育水準で行われているが、そのあたりの発信が弱いのかもれない。自分で考える力は子どもたちにもしっかりと育っている、子どもも親も一緒にないものねだりじゃない、町の魅力を活用した取組を進めてほしいと思う。1つ心配なことがあって、和束で育った子たちは本当に良い子ばかりなので、外に出たときにもみくちゃんにされないか、心配している。

もう1点、課題であると思う部分が、ほぼ15年間ずっと同じ環境・人間関係で育っていく中で、不登校が多くなってしまっていないかということ。私自身、医者として、許可証があるので、寝室まで入っていける権限があるが、昔は、家の間取りとして寝室に入るのに、リビングや子どもが過ごす場所も通る必要があった。その時に、子どもたちの状況も垣間見えた部分が、今はそういった間取りが少ない。家の中での子どもの様子が見えにくくな

っている状況もある。

子育て支援としては、子どもたちがいつまでも住めるところという視点だけでなく、30～40代の親世代がずっと住めるような場所にしていくことが重要。今後も取組を進めていってほしい。

(2) 計画骨子案について

資料2について事務局より説明。

会 長：本日の意見含めて、計画素案の作成を進めていってほしい。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局：次回会議として1月14日を想定している。時間は、本日同様1時半から2時半くらい。
また改めて通知させていただく。

3. 開会

以上